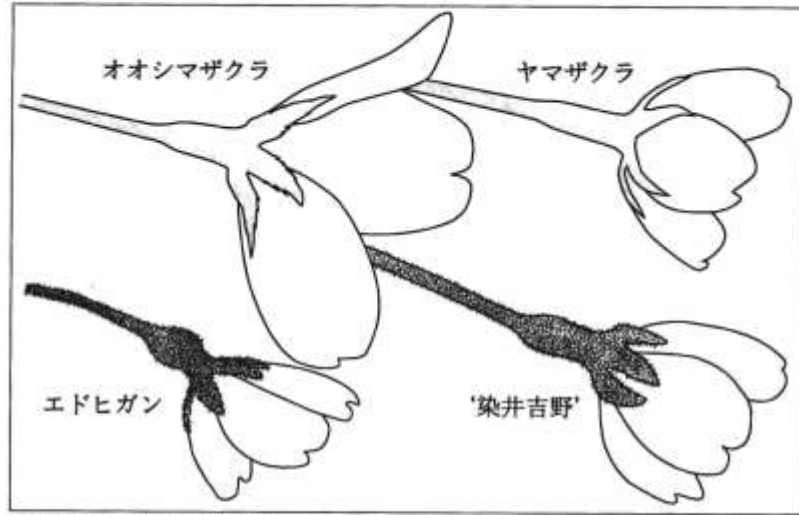


森の中のお花見

お花見。サクラの花を観賞する習慣は我々の文化にすっかり定着しており、早春には連日のようにお花見の話が新聞やTVを賑わせています。多くの場合、こうしたお花見のサクラは町中に植えられている「染井吉野」です。しかし人里離れた山の中で人知れずひっそりと咲いているサクラもあります。

早春の山を歩いているときに満開のサクラに出会うと嬉しくなります。まだ冬枯れの木が多い季節なので、満開のサクラは遠くからでもすぐに見つけることができます。公園のサクラとは違って、森の中の大きなサクラは手にとって見るができる高さには花をつけることは滅多にありません。しかし遠くから眺めたり、満開の木の下から見上げたりすると、公園のお花見とはまた違った楽しみが味わえます。

ところで、日本にサクラの仲間は一〇種も分布していますが、花の裏側の萼がくによって種を見分けることができます。萼筒の形や毛の有無、萼片の形や鋸歯きざしの有無などが重要な特徴です。樹高一〇メートルを超えるような大きなサクラには、東北以南に分布するエドヒガン、関東以西のヤマザクラ、東北以北のオオヤマザクラなどがあります。ヤマザクラとオオヤマザクラの萼筒は細長い筒形で無毛、萼片は長く鋸歯はありません。エドヒガンの萼筒はくびれた壺形かじりで有毛、萼片は短く鋸歯がありますから簡単に見分けられます。花が咲いている枝を手にしなくても、満開の木の下にはよく花が落ちていたので拾って観察することができます。



代表的なサクラの花と萼

こうしてよく観察してみると、ときには思いがけないサクラを見つけることがあります。例えばオオシマザクラや「染井吉野」です。オオシマザクラの萼筒は無毛で萼片に鋸歯があります。「染井吉野」はエドヒガンとオオシマザクラの種間雑種ですから両親の中間的で、有毛のややくびれた萼筒と鋸歯がある萼片が特徴です。

オオシマザクラは、一九五〇年代まで薪炭に使うために植林されてきました。関東南部では今でも当時植えられたものがありますが、現在ではお花見の対象として植えられています。また、「染井吉野」はそもそも江戸時代の終わりに江戸の染井村から広まった栽培品種ですから、明治時代以降に植えられたものです。現在では深い山の中だけでも、植えた当時は人が暮らす賑やかなところだったのかもしれない。こうして植えた人の思いを想像することも、また一つの花の楽しみ方でしょうか。

(勝木俊雄)

相生山緑地のサクラ属検索表

作成資料:山溪ハンディ図鑑「樹に咲く花」などによる

